

サッカー場の新設について

～ 市議会一般質問のポイントと質疑応答の整理、そして将来のイメージ ～

1. 市内のサッカー環境の現状



2. サッカーの重要性・需要の高まり



国内の推計実施人口
約436万人
(日本を代表するスポーツ)



当市の中学校以下の
サッカー競技者
100名を超える
(野球・ソフトボールに迫る人数)



- 青森山田高校の全国優勝
- 柴崎 岳選手の活躍
- 尾上サッカークラブの県1部昇格など、レベル向上・夢のある競技

3. 求められるサッカー場の条件 (専用競技場のイメージ)

照明付き・人工芝・スパイク使用可
の専用サッカー場



照明設備
(夜間利用)

人工芝
(通年利用)

スパイク使用可
(練習・試合)

4. 市内の主なサッカー利用可能施設 (現状)

	ひらかドーム (屋内)	照明あり (土) スパイク使用可 (※土のグラウンド)
	平川市 陸上競技場	照明あり 天然芝 中学生以下は スパイク使用可
	平賀多目的 広場	照明なし 天然芝 スパイク使用は 春まで制限
	尾上野球場	照明あり 天然芝 主に練習で利用
	尾上 多目的広場	照明なし 天然芝 スパイク使用は 春まで制限

市の運動施設 13施設のうち、サッカーで使用できるのは5施設

5. 市の答弁 (新設に対する考え方)



市長

- 市内には5つの施設があり、サッカーの練習場所としては十分確保できている。
- 照明・人工芝・スパイク使用可の専用競技場については、土地の確保や設備投資に多額の費用が見込まれるため、新たに設置することは考えていない。



教育長

- 5つの施設のうち、ひらかドームを除く4つの屋外施設はすべて天然芝。
- スパイクにより芝生を傷めるため、春は生えそうまでスパイクの使用を制限している。
- 既存施設を有効活用していきたい。



教育委員会
事務局長

- toto助成金は、新設の場合 補助対象経費の3分の2で上限2,000万円。
- 陸上競技場のインフィールドの人工芝化も、サッカー専用となり約1億円程度の費用が必要で、助成金を活用しても多額の負担が必要であるため、現在は考えていない。

6. 市議の主な質問・意見



葛西 勇人 議員

- 市内には照明付きの人工芝でスパイクを履いて練習できる専用の場所がない。
- サッカーは国内で約436万人がプレーし、当市でも100名を超える競技者がある。
- 青森山田高校や柴崎 岳選手の活躍など、競技レベルも高まっている。
- すぐに新設は難しいが、ぜひ今後検討してほしい。
- 新設ができないのであれば、陸上競技場のインフィールドの人工芝化を検討してほしい(toto助成金の活用も)。

7. 主な質疑応答 (抜粋)



議員

陸上競技場のインフィールドはどのくらい利用されていますか。



教育長

平日・夜間・土日も、市内の中高の陸上部や陸上クラブがトレーニングで頻りに利用しています。



議員

人工芝にすると、陸上の利用ができなくなるのでは？



教育長

サッカーなどの利用希望が増え、陸上利用団体や個人の利用が制限される可能性があります。形勢は厳しい。



議員

平賀多目的広場などの施設で陸上の練習はできませんか。



教育長

多目的広場は球技(野球・サッカー)が主であり、陸上の練習場所としての利用はほとんどありません。



議員

市の財政調整基金もある、長期総合プランに位置付けて検討できないか。



市長

現在は学校施設や庁舎、健康センターなど多くの整備計画があり、限られた財源の中で優先順位を考える必要がある。今すぐの整備は考えていない。

8. 新設の課題整理

 多額の費用	 用地の確保	 利用調整	 陸上競技への影響
● 土地の確保 ● 設備投資が高額 ● 維持管理費の負担	● 適地の選定が必要 ● 周辺環境への配慮 ● 駐車場・アクセス整備	● 既存施設とのバランス ● 市民の公平な利用 ● 大会・練習の調整	● 公認競技場の維持 ● 投てき対応の仕様 ● 陸上団体の利用制限の可能性

9. 期待される効果 (新設によるメリット)

 通年利用	 積雪後も使用可能	 競技力の向上	 多目的利用	 まちの活性化
照明・人工芝により天候や季節に左右されず練習・試合ができる	雪片付け後すぐにプレーでき、冬期間の活動が可能	練習環境の充実でアスリートの発掘・育成につながる	サッカーだけでなくラグビー・運動会・地域のレクリエーションなどに活用可能	スポーツによる健康増進・交流人口の増加・にぎわい創出が期待できる